

吃音とは？

言いたいことが思い浮かんでいても、なめらかにことばが出てこなかったり、ことばのリズムがうまくいかなくなる症状のことです。

育て方・性格・ストレスが原因ではありません。体質的要因の影響があるとされています。ことばが発達する2～5歳頃に、始まることが多いです。

吃音症状

吃音症状には、3種類あります。

連発
(繰り返し)

ことばの一部を繰り返す

伸発
(引き伸ばし)

ことばの一部を不自然に伸ばす

難発
(ブロック)

言いたいことばがあるのに、なかなか出てこない
※随伴症状が出る場合もあります

※随伴症状：話すときに、不必要に力が入ったり、動いたりすること

例：話そうとして顔をしかめる
手や足でことばを出すタイミングを取ろうとする

吃音症状の波

吃音は波があり、多いときもあれば、少ないときもあります。周りの大人が一喜一憂しないことが大切です。

大人は同じ態度で聞きましょう



知ってほしい！発達障害（神経発達症）

きつ
おん
吃音

お、お、おはよう



あーりがとう

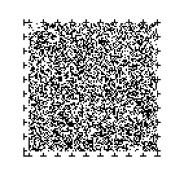


…ツみそばう



吃音について理解し、
適切に関わることで
みんなが安心して過ごせる
環境を作りましょう

世田谷区発達障害相談・療育センター
「げんき」



話し方ではなく、 話す内容に 耳を傾けましょう



気になるとき や 悩んでいるとき は、

医師や専門家（言語聴覚士）に
相談しましょう

参考資料

発達性吃音の研究プロジェクト
「幼児吃音臨床ガイドライン第1版（2021）」

全国言友会連絡協議会「吃音リーフレット」

発 行 令和7年3月

編集・発行元 世田谷区発達障害相談・療育センター
東京都世田谷区大蔵2-10-18
大蔵二丁目複合型子ども支援センター2・3階
TEL 03-5727-2235（代表）
03-5727-2236（相談専用）
FAX 03-5727-2238

吃音のある人と関わるときに



「吃音のある人が、話す意欲をなくさない」 ことが大切です。



話し方をからかったり、まねしない

からかう人がいたら、すぐにやめさせましょう。自分の話し方がいけないことだと思い込み、不安が強くなったり、話しづらくなったりすることがあります。



話し方のアドバイスはしない

言いたいことの先取り、話し方のアドバイス、会話途中の質問、言い直しをさせることはやめましょう。

✗ 「落ち着いて。ゆっくり話してごらん」

焦りや緊張が吃音の原因ではありません。アドバイスをされても、話し方を変えることは難しいです。

✗ 「今は、どもっていないから大丈夫だよ」

吃音はいけないことだという意味に誤って伝わることがあります。



吃音に悩んで、話すことが不安になったり、話すことを避けたりする場合があります。

本人が、自分の吃音について、周りの人にオープンに話せる関係を作りましょう。

「話しづらさについて、わかってくれる人がいる」と実感できることが、本人の安心感につながります。

話をさえぎらず、最後まで聞く

話を聞いた後に、「～だったんだね。」と話の内容をまとめて振り返りましょう。相手に伝わっている実感と、「吃音症状が出ても、話していいんだ」という自信につながります。

ゆったり聞いて、ゆっくり話す

- 話を聞いた後、一呼吸おいてから話しかける
- 聞き取りやすいスピードで話す

大人がゆったりとした態度で関われば、子どもは楽に、話しやすくなります。



短くわかりやすいことばで話す

○ 「□と△、どっちがいい？」

指示は具体的に伝えましょう。選択肢を提示すると答えやすいかもしれません。



わざとではありません。
言いたいことが
言えるまで待ちましょう。

先生が周りの子どもたちに
説明をするときに

事前に「どのように伝えてほしいのか」を、必ず**本人・保護者**と相談しましょう。



吃音は発達障害（神経発達症）、言語障害のひとつです。成長とともにすらすら話せるようになる人もいれば、症状が続く人もいます。

社会生活の困りごとについては、必要な支援や配慮を求めるすることができます*。本人、保護者、所属機関と話し合いながら、一緒に対応を考えていきましょう。

*合理的配慮：誰もが平等に社会生活に参加できるために、周りの人がすべき無理のない範囲の配慮

合理的配慮の例



- ① 発表をするとき、本人が、他の人と一緒に**声を合わせ**て話すようにした。



- ② 話すことが難しいときのために、先生と「今は当てないでほしい」という**合図**を決めておいた。



- ③ 話し言葉以外の方法で、伝えられる方法や手段（タブレット・ノートなど）について、話し合い、活用した。

